

日本におけるヒクイナの生息状況

○平野敏明・植田睦之（NPO 法人バードリサーチ）

ヒクイナ *Porzana fusca* は、日本では北海道、本州、四国、九州、西南諸島に生息する。近年、日本における生息状況が著しく悪化したことが報告されており、2006年12月に改訂された環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。しかし、本種の詳しい生息状況は、一部の地方を除くとほとんど調査されていないのが現状である。そこで、NPO 法人バードリサーチでは、2006年の繁殖期から現地調査とアンケート調査によって、ヒクイナの日本における生息分布、個体数、生息環境について調査を行なっている。今回は、2006年と2007年の調査に基づき、最新の本種の生息状況について報告する。なお、わが国に生息するヒクイナは、ヒクイナ *P. f. erythrothorax* とリュウキュウヒクイナ *P. f. phaeopyga* の2亜種に分類されるが、今回は亜種に分けないで種を対象として調査した。調査方法は、現地調査とアンケート調査をもちいた。これらの調査は、NPO 法人バードリサーチのホームページで調査の参加を広く一般に呼びかけた。その結果、2006年は現地調査に10人、アンケート調査に13人、2007年（7月10日時点）はそれぞれ11人と6人の参加があった。以下に2006年と2007年のヒクイナの確認地点を図示した。

現地調査、アンケート調査から2006年の繁殖期には、合計12か所で少なくとも36羽、2007年には合計10か所で少なくとも37羽のヒクイナの生息記録が報告された。報告数の地域別割合は、2006年では九州地方と近畿地方が25.7%で多く、次いで沖縄県が20.0%、2007年では沖縄県が48.6%と最も多く、次いで九州が16.2%であった。したがって、近畿地方から西の地域ではまだ多く生息しているものと推察される。両年で重複する生息地を除いたヒクイナの生息環境は、休耕田を含めた水田が48.6%、河川が22.9%、湿原が14.3%、池沼8.6%であった（N=35）。現地調査による生息場所の植物の高さは、0.5m以下の場所が35.3%と最も多かったが、1.5~2.5mまでの高さが全体の94.1%を占め、2.5m以上の草丈の高い場所は1か所5.9%だけであった（N=17）。また、水深は10cm以下が76.5%で最も多かった。これらのことから、ヒクイナの選好する生息環境は、地表に水が10cm以下にある、イネやスゲ類、ガマなどの植物が2.5m以下に生育する環境であることがわかった。

